

# ヨーロッパの服飾教育

— 職業教育との関連性 —

神 田 美 年 子

## I は じ め に

服飾の歴史はアメリカよりヨーロッパの方が古く、その発達においても、ヨーロッパの方がはるかにすぐれていることは、周知の通りである。しかるに教育面においては、アメリカでは総合大学のなかに家政学部または、家政学科というまとまった分野が確立し、服飾に関する学科 (Department) および専攻科 (Major) が存在し、その他公立の美術学校、私立の単科大学においても、服飾に関する高度の専門教育が施されているのに比し、ヨーロッパの総合大学には、総合家政学部 (服飾関係を含む) はほとんど存在せず、ただ家政学部の一分野にすぎないと考えられる家庭科学 (Household Science) と栄養学 (Nutrition) の2科があるのみで、服飾関係の教育は、大学においては家庭科教員養成カレッジが併設されているにすぎないという状態である。そこで、ヨーロッパにおいては服飾教育をどのような機関で、どの程度の内容で指導されているのか、また、職業教育との関連について、筆者が実際に見聞し、調査研究したことを報告する。

## II 調査対象と調査結果

筆者が訪問したヨーロッパ各国の教育機関はつぎの通りである。

INSTITUT NATIONAL DE LA RECHERCHE	(フランス)
INSTITUT PEDAGOGIQUE NATIONAL	(フランス)
◎ LYCEE TECHNIQUE DU VETEMENT	(フランス)
UNIVERSITÉ DE PARIS	(フランス)
◎ LES ÉCOLES DE LA CHAMBRE SYNDICALE DE LA COUTURE PARISIENNE	(フランス)
OXFORD UNIVERSITY	(イギリス)
◎ MAYFIELD SCHOOL	(イギリス)
WIEN UNIVERSITY	(オーストリア)
JOHAN WOLFGANG GOETHE UNIVERSITY	(西ドイツ)
BERGBAUERN-UND HAUSHALTUNGSSCHULE HONDRICH	(西ドイツ)

ヨーロッパの服飾教育

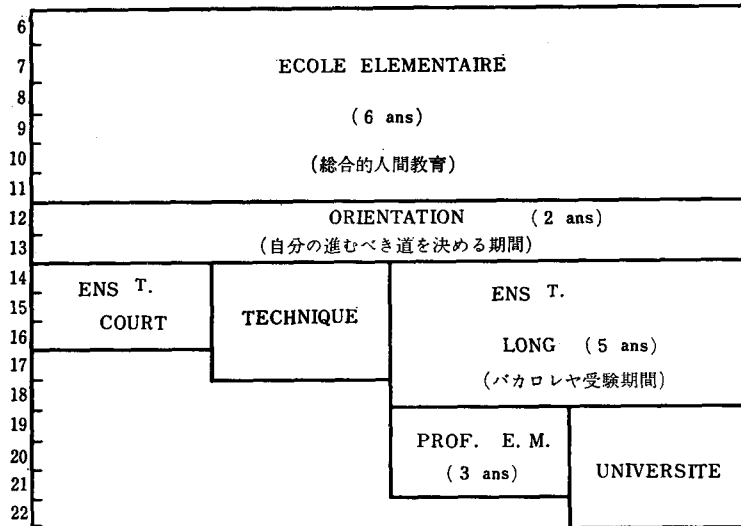
- ◎ LE CHR. INDUSTRIE EN HUISHOUDSCHOOL OUDEHOORD (オランダ)
- MADICALE ET KNORR KOCH-STUDIO (スイス)
- ◎ KANTONAE BERGOAUERN UND HAUSHALTUNGE SCHULE (スイス)
- INSTITUTO DI ALIMENTAZION E DI ETOLOGIA (イタリア)
- ◎ ACCADEMIA ITALIANA DI COSTUME DI MODA (イタリア)

このうち◎印が服飾関係の職業専門学校、家政科教員養成所、家政学校、服飾関係の科目のある小・中学校である。フランスではオート・クチュールのアトリエを訪問して、アトリエの組織、技術指導についても調査したので、併せて報告する。

フランスの教育制度

フランスの教育は、初等教育において将来の進路の大綱が決定される。すなわちリセ (LYCEE) ないしコレージュ (COLLEGE) に進んで、将来高等教育まで進む者と、義務教育を受ける者の二種に分けられる。従来は10才までに将来の方針を決めることになっていたが、10才では早すぎるという観点から、1959年の1月に、16才まで義務教育年限が延長され、2年間の観察期間が設けられた。この制度は1967年から実施されている。「第1図参照」

第1図 フランスの一般的教育機構



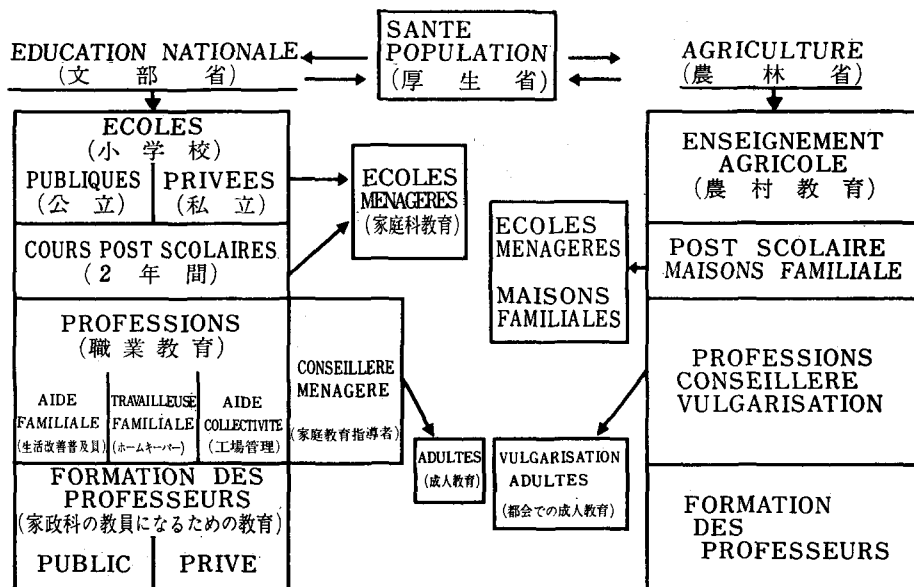
ヨーロッパの服飾教育

職業教育の施される機関には、官立中等技術学校 (LYCEE) あるいは高等専門学校 (GRANDES ECOLES) がある。

高等専門学校といえ、日本では戦前の呼び名の名残りで、大学より程度の低い学校と思われがちであるが、これは逆で、これらの GRANDSE ECOLESに入るためには、バカロレア (大学入学資格試験) をとったうえ、さらに各専門学校の入学試験に合格しなければならないので、大学へ入学するより、高等専門学校の方が、はるかにむづかしいといえる。また、中等教育、高等教育の教職につくためにはカペス (CAPES) アグレガシオン (AGREGATION) などの国家試験に合格しなければならない。このように、すべての資格は国家試験によって決定されるのである。したがって、英才教育を原則とするこの国の教育制度において、服飾教育は、技術訓練を主とする職業教育が中心になっていて、その多くは官公立で経営されている。

一般の中等教員養成機関は、師範学校 (ECOLES NORUMALE SUPERIEURE) , 総合大学であって、技術教育教員は、技術教育高等師範学校 (3年課程) , 職業補導学校教員養成師範学校 (1年課程) において養成される。すなわち小・中等教育の技術科の教員となるものは、一般教科の教員とは全く別な機関を卒業し、各専門部門ごとに国家試験をうけて教員となるのである。家庭科教員課程をもつ者は、職業補導学校教員養成師範学校のみで、職業補導学校教員養成師範学校は、フランス全国に男子校3校、女子校2校である。志願者はその年の10月1日現在で、18才~25才でバカロレア、または、国立職業学校免状、あるいは中等技術教育学校の卒業免状をもつことが必要である。試験は筆記試験、口述試験ないし実技試験で、筆記試験は一般教養と専門課目の論文であるが、家政科はその専攻により (料理・裁縫など) 実技

第2図 家政分野関係



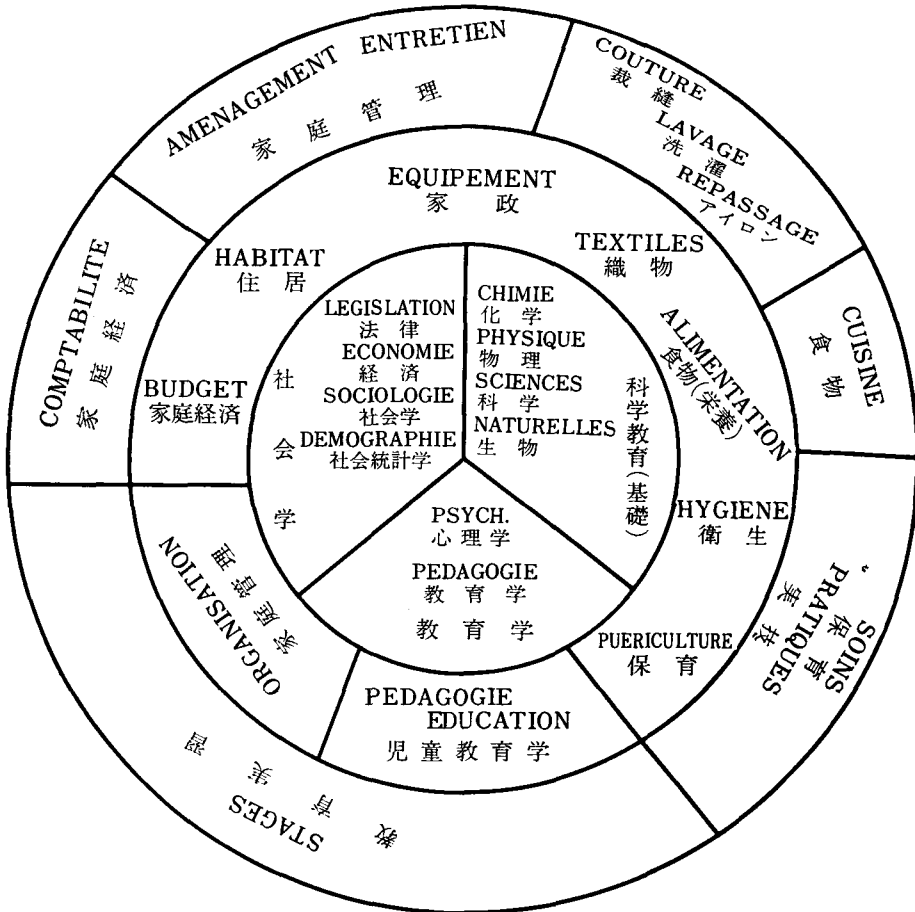
試験を課している。これらの学校は修業年限3年のうち、第3学年が専門的教育、あるいは実習にあてられ、教育実習は最低2ヶ月間行われている。卒業後の教員資格の認定は、すべて国家試験により、合格者は2年間の仮任用の後、その成績の結果、正教員に任命される。

教員養成の学校では、原則として全寮制度で、給費生である。また、卒業後一定期間を教職につくことを約束されている点は、戦前のわが国の師範学校制度に似ているが、初等教員は卒業後10年、中等教員は資格取得後10年というように期間は非常に長い。また、この義務を果さない場合は奨学金を返還しなければならない。

教員の養成はすべて文部省の管轄であるので、養成は人口動態、教員の欠員数、国家の教育計画に基いて、計画的に行われている。「第2図参照」

職業補導学校教員養成師範学校における家政科教員養成の授業科目は第3図に示す通りである。

第3図 家庭科教員養成の授業科目内容



つぎに筆者が訪問した官立洋裁技術高等中学校の教育課程、教授内容、設備、学費等、調査したことを報告する。

## ◎ LYCEE TECHNIQUE DU VETEMENT

この学校はフランス文部省、パリ大学区管理局、パリ市管轄にある官立洋裁技術 高等 中学校で、テーラードを専門に教える職業学校である。従来西欧にあっては、洋裁の分野は服種によって専門的に扱われ、婦人服はテーラード・スーツとドレス・メーカーにわかれ、また、オーダー・メイドとレディ・メイドとははっきり区別されている。この学校もオーダー・メイド科とレディ・メイド科にわかれていて、オーダー・メイド科は男子物テーラー部と婦人物スーツ部から成り、レディ・メイド科は男子物既製服を専門に課している。また、両科とも高等 中学課程（以下リセコースと呼ぶ）と実技課程（以下実技コースと呼ぶ）の二つのコースがあって、入学資格、入学選定方法、授業内容、職先等は、各科や各コースごとに異っている。

### 1. 入学資格及び入学試験

**実技コース**（C・E・T認定コースで、日本の中学校に相当し、リセより一段低い課程をいう）

- (1) 入学資格者の年齢は13才～15才で、小学校義務課程修了者であること。
- (2) 5年課程の実力を有する者。
- (3) 小学校全課程の修了者または、他よりの転入者。
- (4) リセの4年生、（日本の高等1年生に相当）、またはC・E・G（一般教育修了認定）、あるいはC・E・T（技術教育認定）取得後1年を経た者。
- (5) 入学試験（国家試験）によって合格、不合格が定まるが、リセ課程において14才に達し、学業成績を提出した者、および年をとっていても何等肩書きのない者には、特別の配慮がある。

### **リセ・コース**

このコースはオーダー・メイド科と産業科にわかれているが、どちらも年齢に制限はない。

#### a オーダー・メイド科

この科には2年生クラス、1年生クラス、最終学年クラスがあって、その入学資格および入学方法はつぎの通りである。

#### ・2年生クラス（日本の実技高校1年生に相当）

- (1) 本校の実技コースの2年目より入学することが望ましいが、おそい場合は、実技コースの3年目まで行って、C・A・P（専門技術者資格免状）を取ってから入学する。
- (2) 他のリセ3年生クラスより入学するか、またはC・E・G（一般教育修了認定）を持っている者。
- (3) C・E・T（技術教育修了認定）またはC・A・P（専門技術者資格免状）を洋服部門で持ち、実際に工場やアトリエで働いている者。
- (4) (1)と(3)の資格者は、出身校の教授の認定により入学を許可される。また(2)の者は本校において入学試験を行う。

## ヨーロッパの服飾教育

### ・1年生クラス（日本の実技高校2年生に相当）

このクラスに入学できる資格は、他の実技高等中学校の生徒、もしくはC・E・I（産業教育認定証）を持ち、出身校または受入校の教授の認めた者。

### ・最終学年クラス

入学資格はパリまたは地方の優秀生徒で、C・E・Iを洋服の部門で取得した者で、このクラスの地方在住生徒には、本校より学生寮が世話される。入学許可は資格所有者または、前学年度2学期間の試験成績と入学試験結果による。

#### b 産業科（男子既製服）

(1) 2年生クラス（日本の実技高校1年に相当）のみは一率に入学できる。

(2) リセの3年生クラスの資格者、または実技コース卒業者、あるいはC・E・Tの資格保持者

(3) 入学は教授または校長の認定によるか、入学試験による。

## 2. 授業内容

### 実技コース

(1) 3年間勉強して、C・A・P（専門技術者免状）取得の準備をする。オーダー科の方はリセ・コースになってから取得する。

(2) 進歩のいちじるしい生徒には、既製業適性資格優秀免状を与える。

### リセ・コース

#### a オーダー科（男子物・婦人物）

(1) B・E・I（産業教育修了認定免状）取得の準備期間である。リセ出身、C・E・G所有の生徒および2年生クラスの入学者は、1年目にC・A・Pを取り、2年～3年目にB・E・Iを取得することができる。

(2) 本校の実技コース出身者または、C・E・T所有者は、2年間勉強したのちに、B・E・Iを取得することができる。

(3) 他の職種でB・E・Iの所有者は、1年間勉強したのち、洋服のB・E・Iを取得することができる。

(4) 完成クラス（最終学年）においては、B・E・I取得後の仕上げの時期で、第2学期には実地にオート・クチュール等のアトリエで実習する。

#### b 産業科

(1) 男子既製服を専門に3年間でB・T・I（産業技術者免状）取得の準備をする。

(2) 最終学年の第2学期は、工場の実習する。

(3) B・E・I（産業教育終了認定免状）を2年～3年間に同時に取得することができる。

## 3. 卒業後の職先

#### a オーダー科卒業者

(1) リセ・コース卒業者は、スーツのアトリエとか、オート・クチュールのアトリエに就職する。

(2) サラリーマンとして何年か過ぎたのち、自分のアトリエを経営する。

(3) 自宅で自由に働く。

(4) 下請工場を開く。

(5) アトリエの主任として働く。

などがある。

#### b 産業科卒業生

(1) 実技コース卒業者は、労働者としてアトリエに入り、グループ主任をしたのち、アトリエの主任になれる。

(2) リセ・コース卒業者は、大企業のアトリエに就職し、実地の各種を経験し、何年かのちには大企業の責任あるポストにつくか、または個人でアトリエを開く。

#### 4. 設備, 付設, 学費

##### 4-1 設 備

この学校はテーラードの技術訓練を目標にしているが、デザイン、色彩、生地材質の実験室、実習室の設備とか、標本や顕微鏡、その他の実験器具も完備している。ことに洋裁実習室には、最新式のミシン、アイロン、アイロン台、機能的な実習机等が上手に配置してあった。また授業時間中の実習成績を示す電気装置の表示器や、成績がグラフにして貼り出されていた。

##### 4-2 学 費

学費は半食事付 (demi-pension) で全部無料である。教材は学校より提供する場合と、持参する場合の二通りがある。

##### 4-3 付 設

この学校はここで働きながら実地にアトリエで働く人達のために、夜間と土曜科が付設されていて、この期間に専門家免状取得の準備をすることができる。また学生寮の設備も整っている。

以上のようにこの学校は、国家の教育制度に則した職業教育を目的とする職業人養成の学校で、学校当局は責任ある授業内容をもって学生の指導にあたり、厳重な国家試験によって、信頼性のある職業人資格を与えるのである。それゆえ、学生は卒業と同時に職業人として社会に受け入れられるのである。

つぎにオートクチュールの管轄下にある洋裁学校について報告する。

#### ÉCOLES DE LA CHAMBRE SYNDICALE DE LA COUTURE PARISIENNE

この学校はパリ裁縫管理委員会の管轄にある洋裁学校で、オート・クチュールのアトリエで働く縫子たちを養成する目的で設立されたものである。実技専門コース、高等裁縫師コース、

## ヨーロッパの服飾教育

高等学校、エトランゼ・コース等にわかれていて、それぞれのコースの目的によって時間割、授業内容、取得免状等が異っている。各コース別の課程および授業内容は下記の通りである。

### 実技コース

- (1) 修業年限は3年。
- (2) 授業時間は土曜日を除いて毎日9時～12時、14時～17時の6時間授業である。
- (3) 授業内容は裁断、縫製、デザイン、フランス工芸学、家事教育、算術、育児、日常法規等である。
- (4) 修了者には裁縫部門のC・A・Pの資格が与えられる。

### 高等専門コース

- (1) 期間は1年。
- (2) 授業時間は土曜日を除く毎日で、9時～12時、14時～17時の6時間授業である。
- (3) 授業内容は裁断、縫製、仮縫、デザイン、服装史、フランス工芸学、算術、労働法基、日常法規等である。
- (4) 修了者にはB・E・I（産業教育修了認定免状）が与えられる。

### 完成コース

このコースは実技コース、高等専門コースを修了した者が、さらに専門的な職業人となるための資格を取得する目的で進学するコースである。働く人のために設けられたもので、3年目コースと4年目～5年目コースがあって、教育内容は下記の通りである。

#### ・3年目コース

- (1) 修業年限は1年。
- (2) 授業時数は毎週土曜日の8時～12時の午前中4時間である。
- (3) 授業内容は縫製、裁断、デザイン、一般教養等である。
- (4) このコースの修了者には婦人子供服のC・A・Pの免状が与えられる。

#### ・4年目生～5年目生コース。

- (1) 勉学期間は1年。
- (2) 授業は土曜日の8時～12時と、14時～17時までの7時間授業である。
- (3) 授業内容は裁断、デザイン、フランス服装史である。
- (4) このコースは職業裁縫師の資格を取得する準備期間で、その成績如何で職業専門の免状が与えられる。

### 高等裁縫師コース

- (1) 期間は2年間。
- (2) 授業は毎週土曜日のみで、8時～12時、14時～17時の7時間授業である。
- (3) 授業内容は裁断、仮縫、創造等である。
- (4) 高級裁縫師の免状が与えられる。



## 高等学校

- (1) 期間は2年間。
- (2) 授業は毎週土曜日の8時～12時, 13時～17時の1日8時間である。
- (3) 授業内容は裁断, 仮縫, 創造, デザイン, 服装史, 工芸学, フランス教育学等である。
- (4) 資格は1年修了者には職業専門の免状を, 2年修了者には高等裁縫師の免状が与えられる。

以上のコースの他に, エトランゼ・コースがある。これはパリ・モードを研究にくる外国人のために設けられたもので, エトランゼはこのコースで約6ヶ月間勉強してオート・クチュールのアトリエに入り, 実地に経験する人もあるが, 一人前のデザイナーになるにはむずかしいようである。

以上の2校は, 洋裁の技術的訓練を目的とした職業学校であるが, フランス・モードの発生地であるオート・クチュールについて調査したことを報告する。

### ◎LA HAUTE COUTURE

パリ・オート・クチュール(高級洋裁店)は50軒あまりで, 年2回コレクションを行って, その年の流行を方向づける源泉となっている。このコレクションは, 春夏物は1月の終りごろから, 秋冬物は7月の終りごろから, 各店ごとに日を選んではじめられるが, 各店とも初日は新聞報道関係者が招待され, (報道関係者を記事解禁日までシャット・アウトするデザイナーもある) その模様はただちに, 世界各国へ送られるが, スケッチや写真の発表は組合で定められた日まで, 固く禁じられている。記事解禁はコレクションがはじめられてより, 約40日後である。このコレクションを見ることのできる人は, 厳重な資格審査を受けなければならない。すなわち, 各オート・クチュールで組織している組合の許可を得ることが必要である。海外からは世界に有名な富豪, 王侯, 貴族などの特権階級とか, 女優, バイヤーなどが招待され, 高価な服を注文するのであるが, これらの服はどのようにして製作されているか, あるアトリエの経営, 組織について報告する。

#### 1. アトリエの組織

デザイナー	(premiere)	1人
技術主任	(chef d' atelier)	1人
副技術主任	(seconde d' atelier)	2人
職人	(ouvrières)	30人～40人

技術主任になるには, 最低12年の経歴が必要で, 技術面のみでなく, 健康, 性格等厳選されるので, 誰でもがなれるというのではない。職人はさらに, つぎの階級にわかれている。

premiere main qualifiée	7人
premiere main	4人
seconde main qualifiée	10人

## ヨーロッパの服飾教育

seconde main	8 人
petite main	4 人
apprentie	2 人

その最下位に属する *apprentie* (見習い) は *ecole premaise* (小学校) 卒業後、職業教育を受けずにアトリエに見習いとして入社し、3年経つと *petite main* に昇格する。*petite main* は6ヶ月経つと *seconde main* に昇格する。さらに *seconde main* は9ヶ月して *second main qualifiée* に、*seconde main qualifiée* は9ヶ月して *premiere main* に、さらに2年の技術修得期間を得て *premier main qualifiée* になる。*qualifiée* (専門家) になると一着の服の縫製がまかせられて、助手がつけられるのである。*seconde main* (助手) は職業学校でC・A・Pの資格を取得して入社するが、C・A・Pのない者は *debutante* (初心者) または *petite main* として入社する。9ヶ月後 *seconde main qualifiée* (助手としての専門家) になると、スカートまたは簡単なワンピース・ドレスの縫製をまかせられる。*chef d'atelier* は2人の助手がつくが、技術面に対しての全責任を持たねばならない。これが大体のアトリエの技術員の役割と構成である。

### 2. 製作過程

オート・クチュールの一着の服が出来上がるまでのプロセスは、

- (1) アトリエの *première* の創造によって、デザイン画が描かれる。
- (2) *chef d'atelier* が、自分の感覚とテクニックでトワールを組立てる。
- (3) 仮縫を4～5回もしたのち、デザイナーに見せる。
- (4) デザイナーはこれを見て、自分のイメージに会っておれば実物の材料で裁断され、縫製部門に廻されるが、デザイナーのイメージに合っていない場合はとりあげられない。
- (5) 実物の組立ては *seconde main* の仕事になる。
- (6) 縫製はすこしの胡麻化しもなく、かくれた場所にも最高の技術を惜しまない。縫製は大部分が手縫いで、ミシン縫はわずかの部分だけである。

このような分業的過程を経て、一着の服が完成されるのであるから、高価であるのも当然のことといえよう。また技術指導においても、学校教育のように一斉教授ではなく、各個人が、経験することによって会得するというような、封建的な徒弟制度にも似た指導法である。アトリエ・デザイナーのなかには、美術学校出身者もあって、デザイン画は描けても、動く人間の衣服として、機能性に欠けた服ができるという嫌いもあるが、いずれにしてもデザインすることと、縫製技術ははっきり区別されている。

以上モードの国フランスにおける服飾教育は、伝統的に培われた、すぐれた美的感覚が、洗練されたデザインを生み出す源泉となり、経験させ、訓練することによって、精巧な技術が磨かれるというようである。

つぎにオランダの服飾教育について報告する。

### オランダの家政教育

従来オランダでは、農村家庭科教育に力を注いできた。すなわち、大学の家政学科においても、農村家政学という科がおかれている。家政科はアメリカ式の名称で呼ばれ、内容もアメリカの大学にある家政科によく似ていて、Home Economics Extension と呼ばれる夏季講座もあって、外国人学生も参加している。1953年に Wageningen の農業大学 (AGRICULTURAL UNIVERSITY) の中に家政学科が設置された。この農業大学は20学科をもち、大学院もある。その中の一つの学科である家政学科 (Department of Rural Home Economics) には、つぎのような講座がある。

農村家政科 家庭管理  
食物と調理  
住居  
被服

等で、戦後の社会的、経済的変動と技術革新により、家政科教育や研究のために、社会が大学程度の教育を受けた人を要求するのである。家政学校は約 200 校で、家政科教員養成学校は 12 校である。筆者の訪問したユトレヒトにある家政学校について報告する。

#### ◎LE CHRISTELIJKE INDUSTRIE EN HUISHODSCHOOL

この学校はプロテスタント主義の家政学校で、1938年に私立学校として創立されたが、現在では政府が保証している。

生徒数は昼間が500名、夜間400名で、同主義の姉妹校が、ユトレヒトに2校ある。

オランダの教育は、少くとも8年間の学校教育を義務づけられているが、8年のうち、最後の2年間で女子は家政学校で学ぶことが立まえて来ている。(男子は他の専門的な学校へ行く) その間、家庭との連絡を密にして、それぞれの環境に適合せる家庭科学の知識を豊かにすることを、教育の目的としている。教育課程及び内容は、つぎの通りである。

#### 1. 教育課程

料理, 掃除, 洗濯	9時間
算数, 外国語, 国語, 社会科	9時間
洋裁, 手芸	9時間
音楽, 工作, 子守, 自由発表(体操)	6時間

授業期間は8月終りから翌年7月10日までである。2年間の学習を終えると、成績優秀な者は3年間の二次教育課程(一種の高等学校)に進学し、この課程の終了試験に合格すると、家庭科の教師になるための実習課程を受けることができる。この課程は4年間で、家政科の教師に必要な学習(実習を含む)を課せられるが、この資格を得るものが生徒のうち、ただの1%~2%ぐらいしかいないため、一般の高校(男女共学で、家政科はない)から来た生徒は、5年間の課程をとって、家政科の家庭科学の先生になる方を選ぶ者が多い。家庭科学は次の三

## ヨーロッパの服飾教育

つの専門科目に分れていて、この中で自分に適切な科目を選択することができる。科目は家政及び料理、洋裁、図画、デザイン及び刺繍であるが、あまり才能のない者のためのクラスに、保母兼家庭教師、病院その他の機関での看護、または単なる洋裁だけのクラスがある。

### 2. 学 費

8年間の義務教育中は無料である。政府が70～75%、その学校の所在する地方の自治団体が、25%～30%を負担するからである。その他の学生は、父親の収入や、責任に応じた少額の授業料を支払う。また多額の奨学金制度もあるし、5年間オランダの学校で勤務する場合、奨学金を返済しなくてよい。

この学校の特色は、一般の家政学校の他に、家政科教員養成コースを併設している点である。3年間の二次課程を持っている家政科教員養成学校は全国で12しかない。また校内に寄宿舎もあって設備は整っている。

以上オランダの服飾教育は、大学の家政科において、自然科学、社会学、経済学の立場から研究され、衣生活の改良と向上を目指して社会に貢献するというような、アメリカの大学の家政学部（または家政科）で行われているのに似ている。家政科教員養成学校では卒業後、高等・中等教育の技術教員や、Domestic Economist と呼ばれる家政に関する専門職につくものがあるが、服飾に関しては、フランスのように職業教育も発達しておらず、農村の家庭生活を合理化し、生活水準改善のための衣生活における服飾という立場で教育しているようである。けれどヨーロッパのなかで、大学教育に家政学（服飾を含む）があることは珍しい存在である。

### スイスの一般教育と家政科（服飾）教育

スイスは小国であるにもかかわらず、教員制度は22の地区がそれぞれに異った教科目と課程をもち、各地区の教員養成カレッジの卒業生の教員免許状も、他の地区では通用しないというような状態で、教育事情はヨーロッパのなかで、どの国よりも複雑である。

15才までは教育費全額が国家の負担であるが、15才以上になると、月謝（授業料）のみが国家負担で、それ以外は自己負担となる。

スイスでは中等教育における家政科は、必修科目で、特に家庭科技術高校は、家庭科に重点をおいている。中学校卒業後、種々の高校に進む生徒や、転職した者、家庭にある者たちが、学び易いように10種類以上の変形コースがおかれている。

家庭科教員養成科への入学資格年令は18才以上で、12年間の義務教育（普通の場合は小学校6年、中学校3年、高校3年）であるが、なかには変形コースを終了してくる者もある。修業年限は2年半で、修業後2年以内に最少限10ヶ月間の教員経験をした者に対して、はじめて教員免許状が与えられる。しかし折角うけた教員免許状も、住所の変ることにおいて無効となるので、折角うけた教育が、資格として生きてこない場合が多いので、教員になる志望者は少ない。

## ヨーロッパの服飾教育

学科は理論と実技にわかれていて、実技60%、理論40%の割合である。実技とは被服、料理、洗濯、住居に関する技術訓練で、被服は週4時間、授業内容は裁縫、つくり、編物、手芸等である。

この国の学校は全寮制が通学制の学校より多く、時間割には寮生活までが組まれている。すなわち1週間40時間の授業のほか、寮の運営のため週12時間の労働と授業以外の8時間の学習（教師の監督下の自習と実習）が義務づけられ、合計週60時間の拘束をうけている。技術面に重点をおいた裁縫教育が旺んで、種々な高級技術を教える特殊学校が多く、数週間から4年間にわたる課程をもっているが、1950年代後半頃より、実技より理論に重点をおくようになってきている。殊に教員養成課程をもつ学校においては、その点に力が注がれている。

### ◎KANNALE BERGOAUERN UND HAUSHALTUNGE SCHULE

筆者の訪問した学校は、一種の農家政学校で、生徒数も少く、科目は料理、裁縫、洗濯、育児等であるが、指導は専ら技術面に重点がおかれていた。服飾関係は日常着のつくり方の実習程度で、技術面では日本の小学校の家庭科で取扱われている程度のもので、勿論職業教育でもなく、家庭生活に直結した、基本的な裁縫の学習である。また、地下の倉庫には見事なチーズが山積されていたが、これはこの地方特有のチーズ製造法の実習授業の生徒作品ということである。

### イタリアの服飾教育

戦後の服飾界に、イタリアの進出はめざましい。従来イタリアは宗教色が濃く、観光客の派手な服装に、市民は眉をひそめるという状態であったのが、戦後、世界各国の政治的、経済的変遷が、服飾界にも反映して、パリ・オートクチュールの絶対的支持者であった欧米で名の通った金持とか、王侯、貴族などの特殊階級、世界的有名女優、アメリカのバイヤー等が、価格が安いという点、パリ・オートクチュールのようにその服一着きりではなく、その服のパターンが買えて、何着かの服がつかれるという点、よいデザイナーがよいショーを開いて宣伝につとめたことなどが魅力となって、イタリア・ファッションを世界的に認めさせたのである。その情勢下に誕生したのが、筆者の訪問したつぎの学校である。

### ◎ACCADEMIA ITALIANA DI COSTUME E DI MODE

この学校はローマにある私立の服飾専門の職業学校で、卒業後つぎの8種の職業が、約束づけられている。

#### 1. 職 種

- (1) ファッション・デザイナー。
- (2) 劇場、映画、テレビ関係の衣裳デザイナー。
- (3) 流行服地のデザイナー。
- (4) アクセサリーの創作者。

- (5) 公報活動（P・R）と流行のアドバイザー。
- (6) 刊行関係の著者。
- (7) ファッション及び展示に関するデザイナー。
- (8) 流行品の製造及び販売の専門家。

等である。教科目標及び課程、授業内容、学費等はつぎの通りである。

## 2. 教科目標

- (1) ファッション・デザイナー。

デザインの立案のみでなく、モデルの創作ができなければならない。また線を独創し、独自のスタイルを創造するようになること。

- (2) 劇場、映画、テレビ関係の衣裳デザイナー。

服装流行歴史の知識、自分の判断、著者のアイデア、指導者がつくった型、自分の審美眼等から、服装全体をかたちづくることができなければならない。また、時期に適した服装と背景との調和に留意すること。すなわち、ショーの服装について、あらゆる点に責任を負わなければならない。服装のデザインができれば、下書きのスケッチおよび、見本を指導者に見せ、それでよければ材料、色彩を選び、服装の製作を綿密に行わなければならない。

- (3) 流行服地のデザイナー。

独自の着想をもって、新しい織物の意匠、図案を作成する。特に絹、綿、人造繊維の捺染のデザインを創作する。

- (4) アクセサリーのデザイナー。

帽子、宝石細工、装飾用造花、羽根飾り、壁紐、基本的なベルト、ボタン、バッグ、靴、バックル、刺繍等の意匠デザインをする。

- (5) P・Rと流行の相談者

流行の線、材料の品質及び美点、流行の方向等をP・Rするためには、基礎的な理解力を十分に持って、世界の流行の変化に対し、あらゆる問題の可能性を把握できなければならない。

- (6) 刊行関係の著書

寄稿家は流行について簡明に著述し、描写し、批評し、流行界の種々の問題に関して研究し、取扱うことができなければならない。相談相手となる専門家は、相談される事柄について、正確巧みに助言し、批評し、改良を指示できるように訓練される。また美的及び実用的性質の問題を捕えて、解説することが必要である。

- (7) ファッション及び展示に関するデザイナー。

宣伝されようとするものの本質を、2~3の線で伝達することができるよう勉強すること。また問題中の眼目の形、特徴、意義を強調することができなければならない。

- (8) 流行品の製造及び販売の専門家。

学園で修得した知識でもって、製造の全工程、工業的採算、市場調査を管理することができ

なければならない。これらの実用上の助言者は、流行界に関連して商会に非常に要求されるのである。

### 3. 教育課程

履習期間は2年であり、2年目は二つの期間にわけられていて、最後の期間に各コース特有の課題にたずさわることになっている。前述のそれぞれの専攻は、勿論学生自身の選択によるが、これを二つのグループに分けることができる。

#### A. Fashion and Costume designers

- |                         |           |
|-------------------------|-----------|
| (1) Costume designers   | (服装デザイナー) |
| (2) Fashion designers   | (流行デザイナー) |
| (3) Fabric designers    | (織物デザイナー) |
| (4) Publicity designers | (公表デザイナー) |

#### B. Publicity Writers

- |                                             |              |
|---------------------------------------------|--------------|
| (1) Public relations                        | (公衆関係)       |
| (2) Fashion writers and fashion consultants | (流行の著者及び相談者) |
| (3) Fashion production experts              | (流行品の製造専門家)  |

#### ・1年目の一般科目

服装デザイナー

流行デザイナー

織物デザイナー

流行著者及び相談者

公衆関係

流行家の製造専門家

等で、2年目の専門科目は前記の Fashion and Costume designers のグループと Publicity Writers のグループである。

### 4. 教授内容

#### 教 科 目

##### (1) 作 成

流行のデザイン

時代衣裳のデザイン

舞台衣裳のデザイン

展示のデザイン

織物のデザイン

##### (2) デ ザ イ ン

像——濃淡の配色

姿の作画 (スタイル画)

色 彩

服装とアクセサリ-の関係

(3) 特殊教養

服装史

演劇史

美術史

(4) 語 学

フランス語

英 語

(5) 公表及び新聞

公衆関係

広告手段

流行雑誌, 流行評論

流行の写真

通 信

(6) 流行品の製造

工場採算

製 造 性

市場調査

履習計画の概要

I デザイン

像——濃淡の配色

姿の作画 (スタイル画)

色 彩

この科目の内容は、人間の自然な状態、釣合い、運動中の姿を作画することができるように、解剖学的作画及び濃淡の配合法を学ぶ。これは流行の図版を図案に作成するには、是非必要とする知識であるからである。また色彩の研究は、実際に如何に適用しなければならないかを把握することが必要である。色彩の学習は、その他ファッションとショーの作成の基礎をなしている調和とコントラストを創造することができるために、色彩の鑑賞は是非必要なのである。アクセサリ-のデザインは、幾何学的デザインから技術的に誘導することができるが、純粋な空想によって創造されるものである。

2. 特殊教養

(1) 服装史



## ヨーロッパの服飾教育

### (2) 演 劇 史

### (3) 美 術 史

ここでは服装及び演劇の歴史を教える。美術史は Costume と Fashion を専攻している学生のために、特に留意して、綿密な教授内容が計画されている。

### 3. 作 成

#### (1) 流行のデザインと創作

#### (2) 時代衣裳のデザイン

#### (3) 舞台衣裳のデザイン

#### (4) 宣伝用デザイン

#### (5) 織物のデザイン

#### (6) アクセサリーのデザインと創作

時代衣裳のデザインは、すべての時代の服装を含んでいるが、特にヨーロッパの服装に留意されている。舞台衣裳と時代衣裳との関係は人物、作品、著作に表現されている思想を研究しなければ、その作製は困難である。宣伝用展示のデザインは、表現、着想、優雅と輪郭の法則に従った流行を、創作的にスケッチすることに重点をおいている。ファッション・ショーのデザインは、個性的で、強制されないで、自由な着想がよい。織物地のデザインは、製織の研究と、絹、綿、人造繊維の捺染のためのモチーフの創作を行う。アクセサリーのデザインは、広範囲にわたり相当重要なものである。

以上がこの学校の教育課程及び教授内容であるが、ヨーロッパ各国の服飾教育の内容とは異ったアメリカ式な内容で組織されている。すなわち、縫製技術よりもファッション・デザインに重点をおき、一方では広告、宣伝、展示、工場採算、製造性、市場調査等、衣服を生産し、販売する商品学的立場からの職業教育である。私立経営ではあるが、労働省の後援で授業料は不要で、入学手数料だけが必要という特典がある。

## Ⅲ む す び

ヨーロッパ各国の服飾教育に関する教育機関、教育課程、教授内容、施設、学費及び職業教育との関連等について、調査研究したことを要約するとつぎのようである。

1. ヨーロッパの総合大学には、家政（服飾関係学科を含む）に関する総合的教育を施す教育機関は、ほとんど存在していない。

2. ヨーロッパの服飾教育を行っている教育機関は、官・公・私立の職業学校、家政科教員養成カレッジ（または養成所）、家政学校、農家政学校、小・中学校の家庭科等である。

3. 教育課程および教授内容は、各学校の目的使命によって異っているが、いずれも目標を細分化して編成されているため、学生または生徒の能力に応じたコースやクラスを自由に選択でき、深く、専門的に学ぶことができる。

## ヨーロッパの服飾教育

4. フランスの職業教育は、国家の教育制度との関係において充実している。すなわち、学校教育が職業に直結していて、厳重な国家試験によって取得された資格は全国共通のものであり、就職に役立つ。

5. オランダ、スイスの家政学校、農家政学校における服飾教育は、目標を技術訓練より衣生活の向上改善におき、衣服を科学的に取扱うことを目的とする被服教育で、技術より理論を尊重するような傾向に変わりつつある。

6. イタリアでは衣服を産業的生産物とみなす近代企業の立場から、その経営管理、商業的取り扱い方法の研究が、新しい服飾教育として、その範疇に織込まれている。

7. デザイン関係学科の履習期間は2年で、技術訓練に関する履習年限は3年である。

8. 学費は、教育機関の経営が、官立、地方自治体、有志団体、組合等によるものが多いので、ほとんど無料もしくは軽少である。

以上のように、ヨーロッパの服飾教育は、アメリカや日本の服飾教育とは、その性格なり目標において異なっている。すなわち、ヨーロッパの服飾教育は人間の生活に直接に、また、ただちに役立つ高度の技術訓練によって人間生活に貢献することを目指し、アメリカや日本での服飾教育は人間生活の衣生活面におこり得る、あらゆることに応じ得る能力 (potentiality) の育成をめざしている。

現在のわが国の服飾に関する職業教育は、短期大学においては期間が短く、そのうえ履習範囲が広いので、専門的職業人として充実した技術や知識を身につけることはむずかしい。また大学においても、衣生活に関するあらゆる能力を育成することを目的としているが、社会が、その能力をそのままに生かそうとする態勢が整っていないため、職業に直結することは困難である。服飾関係の職業教育機関と考えられている、各種学校においても、ほとんどが個人経営であるため、内容の充実した、完全な職業人教育は望めないことであり、現在行われている資格審査の方法も、フランスの国家試験の水準にはほど遠いものがあり、その信頼性も低い。

このような現状にあって、なお、学校教育即職業教育の必要性が叫ばれている今日、伝統と経験によって培われた、ヨーロッパの職業教育の長所を取り入れ、各教育機関においても、その目的に適合したカリキュラムを編成して、充実した服飾教育が実現されることが望ましい。

## 引用文献

- 1) 田中 久子：欧米における家政学（昭和40年度）
- 2) 前田、西川：世界の文化地理第11巻フランス（昭和38年度）